

## 『海の駅』をご存じだろうか

吉田 武志

本欄の第 52 回「日本の交通・物流 第 4 の新展開」で、道路系の新展開として「道の駅」が紹介されている。道の駅はマイカー、レンタカーやバス移動の際に実際に利用された方も多数と思われるが、筆者は国土交通省港湾局に在席してしたことがあるので、一般にはまだ馴染みが薄いかもしれないが、道の駅の海路版ともいえる『海の駅』を紹介したいと思う。

『海の駅』とは、道の駅の海路版であり、道の駅と同様、駐車場、トイレ、給油施設、売店、レストラン、宿泊施設等を備えるものもあるが、プレジャーボートやヨットのビジター向け係留施設が整えられていることが最大の特徴である。施設整備だけでなく、マリニイベントや海産物の販売、地元漁船での漁業体験など、地域の特性を活かしたサービスが提供されており、海洋国家日本の情報結節点としても機能している。

わが国には「津々浦々」という言葉があり、その意味は“全国いたるところ”である。モータリゼーション以前の交通・物流網の主力は長きに亘り海路であり、船着き場である「津」や、入り江である「浦」は正に全国いたるところに存在している。いまでも人々が暮らす地の多くは、これら津々浦々の後背地であり、ネットワークの結節点に設置される『海の駅』は、活用次第によっては道の駅と同様に意義が高いのではないだろうか。

わが国の国土面積は、約 37.8 km<sup>2</sup>で世界総陸地との割合はわずかに 0.25%、国別順位は 60 位以下である。一方、海岸線延長は約 3.5 万 km、排他的経済水域（EEZ：Exclusive Economic Zone）と領海の合計は約 447 km<sup>2</sup>（国土面積の約 12 倍）で、いずれも世界第 6 位にあたる（本欄第 7 回「海洋国家日本の構想」参照）ことをみても、四方を海に囲まれたわが国における『海の駅』の可能性を感じてもらえるものと思う。

『海の駅』は、国土交通省に登録されるが、広島県呉市(当時は豊町)に 2000 年 3 月に設置された「ゆかた海の駅」が第一号であり、現在までに北海道 7、北陸・信越 6、東日本 48、日本海 5、兵庫 11、近畿 9、瀬戸内 22、四国 17、九州・沖縄 23 と全国 148 箇所に広がっている。詳細は『海の駅』のホームページ

< <http://www.umi-eki.jp/index.html> > に掲載されているので、近くに出かけられた際は、是非一度ご覧頂き、空路、陸路とともに、海洋国家日本における海路の可能性についてご高察いただきたいと思います。

2015 年 9 月 28 日